

Contents

水みちを追って 利根川東流・荒川西流と邑西用水 Volume 11 2011.3	5
美田を可住地に代える 利根川 邑西用水、その後 Volume 12 2011.3	35
ダムの役割 水害を減らし、水道の水をつくる Volume 13 2011.3	59
荒川を下りながら① 津波 中流部 Volume 14 2011.3	91
荒川を下りながら② 都市施設としての荒川 Volume 15 2011.3	113
荒川を下りながら③ 入間川水系と古代 中世の河川 Volume 16 2017.3	137
荒川を下りながら④ 武蔵野台地の川、新川川川と仲間たち Volume 17 2016.3	161
荒川を下りながら⑤ 荒川支流 隅田川、その支流 石神井川と神田川 Volume 18 2019.3	175
神流川の水 久保ダムで東京 埼玉の水に Volume 19 2020.3	189
水は流域を往く 活動 生き、学びと気づきの中間報告 Volume 20 2021.3	203
補遺 埼玉県にとってのハッ場ダム	240

「荒川流域を知るⅡ」作成にあたって

本書は、NPO 法人水のフォーラムの機関誌「水の FORUM」の 11～20 号に掲載した特集「荒川流域を知る」シリーズの 11～20 を合冊したものです。

「荒川流域を知る」11～19 は、荒川流域の水を河口から上流に遡りながら、さまざまな水を見てきました。そこで、荒川の水は現流路を往くだけでなく、人為による改変以前の自然の流れを伝える農業用水路を通じて今も埼玉東部を流れていることを知りました。

そこでの荒川は、時代により位置の違いはあっても必ず旧利根川に合流し、東京湾に注いでいました。それで旧利根川流域についても調べを広げ、それらを 11～19 にまとめ、20 号の「水は流域を往く」で、当 NPO 立ち上げ以来発行してきた「水の FORUM」の特集の総まとめとしました。

「水の FORUM」11 号からは、流域の水を徐々に横断的・総合的に捉えられるようになりましたが、並行して、とりあえず蓄えた個々の知識が号を重ねるごとに、「そういう関係にあったのか」と気づく場面が増えました。

当合冊本作成にあたっては、現在の解釈による修正を試みたのですが、一つひとつが気になり、時間ばかり過ぎていきます。それでやむを得ず、その時々判断を残したまま、合冊することにしました。

併せて、水への理解が未熟だった頃に多少とも関わったハッ場ダムが完成し、それはまた当 NPO の一つの歩みでもありましたので、「埼玉県にとってのハッ場ダム」にまとめ、当合冊本の「補遺」とさせていただきます。

本書が皆様の生活や活動の場で多少ともお役に立てれば、幸いです。

